

あの日の夜

柏崎市立高柳中学校 一年西村彩香

十月二十三日。いつもより早い夕飯。五目

ごはんを一口食べたその瞬間、

「がシャーッ。」

台所の皿がぶれたと同時に、家が大きくゆれ

た。母の悲鳴と食器のおれる音。机・棚の上

の物が落ちてくる。私は、今この場でいっ

い何かおこっ、こいるのかがま。たく分からず

動けなかつた。

「え、何?? 何かおきてんの??」

今この状況がま。たくおからない。信じられ

ない。。。

ゆれがおさまった。部屋は、ま、暗だ。

「彩香、大丈夫?? はやく外にでるよ!!」

母に言われた。部屋をどた。げんかんにっづく

道も、ま、暗。おからないかちらかっ、こいた。

ゆれがおさま。こからも私はまだおからない。

い、たい今何かおきたのか。

だが、明かりのとも、こいない暗い外に出

こやっど事態を把握した。もう外に出ている
人もいた。私達は、車の中に避難した。
「ケがしてない??怖かった。無事でよかったです。
母の声。今の私の心を安心させた。幸い、出
かけを聞いた姉も無事に帰って来た。車の中で
話をしているうちに、私は、落ちつきを取り
もどして来た。しかし、。まただ。さっ
きよりは小さいが、いっくらぶん大きいわね。つ
づいた。何回も、何回も、。不安は、いっ
不安になっ。こもた。家は大丈夫だろうか、
祖父母は無事だろうか、友達は何んな無事だ
ろうか、。時間かたつて、不安はいっ
と、大きくなる。何とかこの不安をおさえた
い。私は目を閉じた。
いつの間にか眠っていったようだ。あまりに
も静かだ。さっ。きまごのことか、そのようだ。
ふと私は窓から空を見た。すると空には流れ
星が流れていった。初めに見た。私は感激して、
もう一度流れて流れて星に願った。
早くゆねが、おさまりますように、。。